

## 係活動分科会 分科会提案

本校研究テーマ

自ら学び、思いを実現しようとする児童の育成  
～学習者用端末の利活用を通して～

係活動分科会 目指す児童像

クラスをよりよくしたいという思いをもって、  
継続的に係活動に取り組む児童

### 1 分科会設定の理由


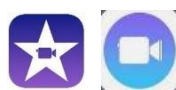
学習指導要領において、「係活動は、学級の児童が学級内の仕事を分担処理し、児童の力で学級生活を楽しく豊かにすることをねらいとしている」と明記されている。しかし係活動を実践する中で、意欲的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きいという課題が見られる。そこで、学習者用端末を効果的に利活用することで、準備の時間が減り無理のない活動ができたり、表現の幅が広がり楽しみ方を増やしたりすることができる考えた。より多くの児童が意欲的・継続的に係活動に取り組めるようになることを目標とし、本分科会を設定した。

### 2 目指す児童像設定の理由

本校では、各学年・学級の発達段階や実態に合わせて様々な係活動が行われている。学級への所属感を深め、学級の一員として、「よりよい学級にしていこう」という思いをもった児童の姿を見ることが出来る。しかし、「こうしたい!」という思いが1番高まるのは、係活動の設定時から数週間で、段々と活動が停滞してしまうことも多い。その背景には、活動する時間の確保が難しいことや、発表や評価の場の設定が少ないこと、どのように表現すべきか分からないことなどが大きいという現状がある。そこで、時間や場所などの制約が少なく、多様な表現を可能とする学習者用端末を効果的に利活用することで、「よりよい学級にしたい!」という思いをもち、計画・実行し続けていくことができる児童を育成したいと考えた。

### 3 指導の工夫

「クラスをよりよくしたい」という思いをもち、継続した活動にしていくためには、以下の5点が重要であると考えた。

手だて	学習者用端末の活用例
<p><b>①活動への思いを高める</b></p> <p>「活動への思い」は、係活動の原動力である。クラスをよりよくするために、自分ができることは何かをしっかりと想起させ、子どもたちの自由な発想で係を立ち上げ、それに賛同する児童同士でメンバーを構成する。自分がやりたい係につくことが、より思いを継続させることになる。その際、係カードをデータで作成して活動内容などを表現させることで、修正しやすく、より綺麗に仕上げることができるので、児童が思いを表現しやすく意欲向上に繋がる。</p> <p>また、どのような活動ができるかを児童同士で話し合う機会を作ったり、時には教師が提案したりして、様々な表現方法で児童が係活動に取り組めるようにする。</p>	<p>・係カードのデータ化</p>  <p>・動画編集のアプリを活用しての活動</p> 


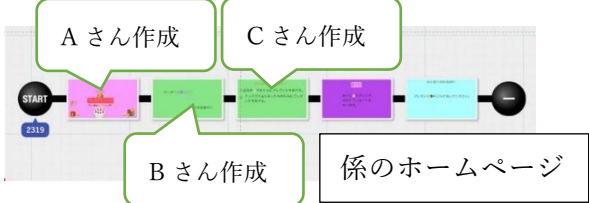




<p><b>②見通しをもたせる</b></p> <p>活動を継続させていくためには、子どもたちが見通しをもてるように活動計画を立てることが必要である。その際、ネット上にある情報を活動の参考にして、自身の活動をイメージしながら計画を立てる。また、係カレンダー等を作成して活動計画をクラスで見える化することで、計画的な活動につながる。さらに、帰りの会などで活動の予定を共有する場を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に必要な情報の検索 </li> <li>・活動の予定を共有  </li> </ul>
<p><b>③活動時間の確保&amp;発信・発表する場の設定</b></p> <p>係活動を活発にするためには、活動時間をしっかり確保していくことが大切である。学級活動の時間や朝学習の時間、休み時間等を係活動に使えるように、教師の方で見通しをもって時間を確保する。また、タブレットのクラスルームに係用のクラスを開設するなど、児童が自由に活動内容を発表したり連絡事項を発信したりすることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット上で の活動・交流 </li> <li>・オクリンクを使って 発表資料の作成 </li> </ul>
<p><b>④評価の場の設定</b></p> <p>活動意欲を持続させていくためには、活動したことに対して評価する場を設けることも必要である。係ごとの自己評価、友達による評価、教師による評価を合わせるようにする。そのために、係用クラスルームのストリームやムーブノートなどを活用し、係活動のよかったところや次の活動へのリクエストなどを伝え合えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスルームのスト リームを活用して の交流 </li> <li>・ムーブノートの広場 の活用による交流。 </li> </ul>
<p><b>⑤定期的に係を見直す</b></p> <p>始めに高い意欲をもって活動に取り組もうとしていたが、途中でやりづらさを感じたり、もっとチャレンジしてみたい活動を見付けたりすることがある。そこで、定期的に活動内容を見直したり、場合によっては違う係を作ったりする時間を設けることで、活動内容が精選され、継続した活動つながる。その際、係カードをデータで作成することで、手軽に取り組めたり、レイアウトを楽しみながら作ることができたりすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係カードのデータ化   </li> </ul>

#### 4 学習者用端末の活用例


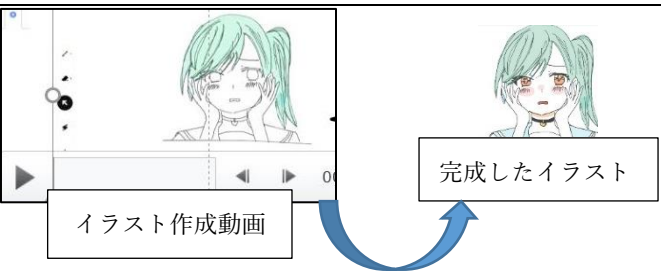
##### ①活動への思いを高める

###### 係カードのデータ化

※本分科会は、1年・2年・4年・6年担任での実践になります。  
 ※実践した学年のみの記載となります。






学年	○実施内容 ★良かった点
2年生での実践 	○係カードの作成の代わりに、オクリンクの提出ボックス上で見合うホームページを作った。係のメンバーでページを分担して作成し、その後一つにつないで、提出ボックスに入れた。 ★メンバー全員で仕上げたことで、係全体の士気が上がり、実際の活動への意欲が高まった。 
4年生での実践 	○Pages を活用して係カードを作り、プリントアウトして教室に掲示した。 ★手描きに比べて、写真を入れることができたり、きれいに仕上げることができたり、素早く完成させることができたりした。児童がイメージしたものを手描きよりも表現しやすく、意欲の高まりにつながった。 
6年生での実践 	○4年生同様、係カードをデータで作り、プリントアウトして教室に掲示した。 ★6年生は、ドキュメントを選択してカードを作る係も多く、自分たちの作りたいイメージに合わせて、アプリを選んでいた。また、内容についてよりよいものにしようとする積極的に話し合う姿が見られた。掲示することを意識して文字の大きさや色についても考え、協働的に作成していた。 

###### 動画編集のアプリを活用しての活動

学年	○実施内容 ★良かった点
6年生での実践 	○JamBoard 上で自分がイラストを描いているところを画面録画し、その動画をアムービーで編集し、再生スピードを速くしたりいろいろなところをカットしたりした。 ★動画編集アプリの活用は活動の幅を広げることができ、児童の思いの実現につながると感じた。 


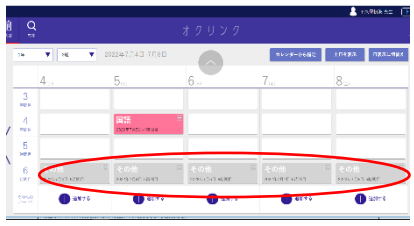




## ②見通しをもたせる

活動に必要な情報の検索&活動の予定を共有


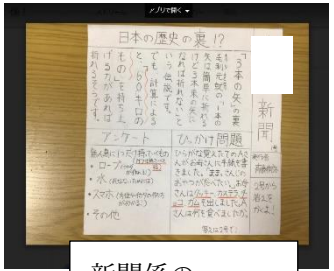
学年	○実施内容 ★良かった点
2年生での実践   	<p>○それぞれの係で活動計画を作成した。その際、Googleの検索機能を使って、工作係で作りたいものなど、活動の参考になる情報を収集した。また、クラスルームのストリームやオクリンクの提出ボックスで材料集めを友達に呼び掛けたり、活動の予告をしたりした。</p> <p>★自分たちが作りたいものやそのために必要な材料が画像でも確認することができ、活動をイメージしやすく見通しがもてた。また、クラス全体に意見を気軽に発信でき、活動が活発になった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  03 7月13日 ガチャガチャのボールがあったらクラスルームに送ってください。         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           クラスルーム         </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>よてい 火曜日 昼休み</p> </div>

## ③活動時間の確保&発信・発表する場の設定

インターネット上での活動・交流

学年	○実施内容 ★良かった点
1年生での実践 	<p>○普段から使い慣れているオクリンクを活用し、授業がない6時間目を係活動用に開放した。係で作ったクイズや活動の予告、作った作品を印刷してほしい等の先生への要望などに使った。</p> <p>★登校後の隙間時間や休み時間、放課後など、時間の制約なくいつでも投稿できたり、準備するものが学習者用端末のみだったりすることが、各自のペースで活動しやすく主体的な活動につながった。</p> 
2年生での実践 	<p>○係専用のクラスルームを作成し、作った作品や友達への質問、活動予告などをストリームに投稿したり、それに対しコメントをしたりできるようにした。</p> <p>★1年生同様、時間の制約なく自分のペースで活動できることが主体的な活動につながった。</p> <p>★工作係はクラスルームのストリーム上で作ってほしいものを質問し、それを基に創作活動に当たるなど、内容や目的に合わせて活動の場を選択することができ、活動が活発化した。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「好きな遊び」についての質問と、それに対してのコメント</p> </div>
4年生での実践 	<p>○2年生同様、係専用のクラスルームを作成し、作った作品や友達への質問、活動予告などをストリームに投稿したり、それに対しコメントをしたりできるようにした。</p> <p>★2年生同様、実際に友達の前で発表したり、インターネット上での作品発表にしたり活動の場を効果的に選択することができ、主体的な活動につながった。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>イラスト系の作品</p> </div>


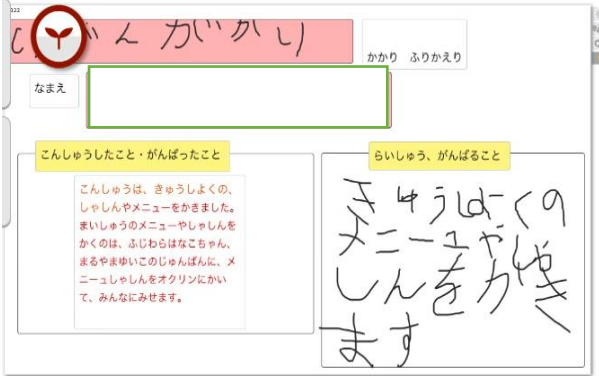

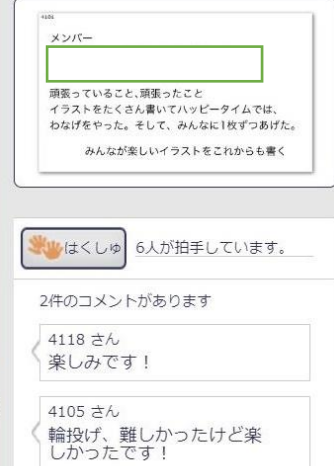


<p>6年生での実践</p> 	<p>○2・4年生同様、係専用のクラスルームを作成し、作った作品や友達への質問、活動予告などをストリームに投稿したり、それに対しコメントをしたりできるようにした。</p> <p>★2・4年生同様、活動の場を効果的に選択することができ、主体的な活動につながった。6年生は学校全体に関わる仕事をする時間も多く忙しいという課題があった。そのため、少しの隙間時間や放課後など、時間の制約なく活動できることは非常に効果的だった。また、クラスルームのストリーム上では普段あまり関わりのない子同士のコメントの交流が見られ、友達との関係づくりのきっかけにもなった。</p>	 <p>新聞系の 放課後の投稿</p>
--	--	--

※上記の2・4・6年生のクラスルームでの交流は、以下の「4評価の場の設定」にもつながります。

#### ④評価の場の設定

##### ムーブノートの広場の活用による交流

学年	○実施内容 ★良かった点	
<p>1年生での実践</p> 	<p>○ムーブノートの「私のノート」に、右のようなワークシートを送り、自分の係自己評価できるようにした。それまでの係活動の自己評価をして書き込み「広場に」送ります。次に、友達同士で見合い、楽しい活動をしていた係の人や頑張っていたと思う係の人の振り返りカードに拍手を送り合った。</p> <p>★「拍手がこんなにきた！」と嬉しそうにする様子が見られた。また、自分だけの評価だけでなく、他者からの評価も同時に行うことができ、次への活動の意欲へつながった。</p>	
<p>4年生での実践</p> 	<p>○ムーブノートの「広場」に、自分たちの「頑張っていること」や「みんなに伝えたいこと」などを書いたカードを係ごとに送り合った。そして、それぞれ友達カードを見てコメントし合った。</p> <p>★自己評価に加えて友達からの評価を受けることで、次の活動を具体的に考えるきっかけとなり、活動への意欲が高まる様子が見られた。</p>	

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・時間や場所の制限が少ない学習者用端末を活用することで、効率的で無理のない活動ができ、児童の意欲が継続した。
- ・活動計画や発信・発表等様々な場面で学習者用端末を活用することで、表現方法が多様化され、児童の「やってみよう」「みんなに知らせたい」という意欲を高めることができた。
- ・学習者用端末を使って発信し合ったり、評価し合ったりすることで、児童相互のかかわり合いが深まり、よりよいクラスにしたいという思いをもって係活動に取り組む姿が見られるようになった。

### (2) 課題

- ・学習者用端末の活用がさらに多様化し、よりよい活動をたくさん生み出していくことができるよう、活用例を教員が提示したり児童同士で紹介し合ったりすることが必要である。
- ・ふさわしくない書き込みや画像、映像がないよう、SNS ルールや情報モラルについて全員で確認したり、教員がチェックしたりすることが不可欠である。